

平成24年度 自己評価報告書

世田谷区立船橋希望中学校

I. 本校の目標及び計画

1. 教育目標

人権尊重の精神を基調として、希望をもち、未来に羽ばたく、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成するため、次の教育目標を設定する。

- 認め合い、励まし合う、豊かな心をもつ生徒
- 深く考え行動する、学ぶ意欲のある生徒
- 磨き合い、高め合う、心身ともに健康な生徒

2. 学校評価を踏まえた重点目標

「ことばの力」を基盤として、以下の重点目標を達成することを通して、知的活動の質をより一層高め、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(1) 人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。

「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」と実感できる生徒を80%以上にする。

(2) 日々の授業を充実させ、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。

「授業の内容が理解できる」と実感できる生徒を80%以上にする。

(3) 基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための強い心を育てる中で、一人一人が大切にされ、お互いが認め合い協力しあえる集団を育成する。

「学校のきまりを守って行動している」と自覚できる生徒を90%以上にする。

3. 学校の教育目標並びに重点目標を達成のための基本方針

(1) 「豊かな人間性」を育む学校

- ① 学校行事や宿泊行事における共同活動を通して、学校や学級への所属感を高めるとともに、成就感や感動を体験させ、互いに鍛え合い、切磋琢磨し、認め合い・支え合い・高め合える活動、充実感や達成感のある活動を推進する。
- ② 地域活動やボランティア活動の充実を図り、社会の一員としての自覚や他の人の思いやる心を育む。
- ③ 人格の形成をめざし、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認め、よりよい人間関係を築けるよう、人権教育や特別支援教育、心の教育を充実する。
- ④ 職場体験をはじめ生き方指導を充実し、生徒の自己実現を支援する。
- ⑤ 相談機能を充実・強化し、生徒一人ひとりに応じた生活指導を行い、人間性を高め、いじめを許さない校風を確立する。
- ⑥ 交流活動を推進し、伝え合う力や表現力など、コミュニケーション力を育む。
- ⑦ 正義感があり、公平・公正な行動ができる生徒を育成する。

(2) 確かな学力をつける学校

- ① 「豊かな知力」を育成するため、各教科等の指導方法や指導体制の工夫改善に取り組み、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するた

めに必要な思考力、判断力、表現力を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養う。また、「学習ガイド」を配布し、家庭と連携して学習習慣を確立させる。

- ② 学習習得確認調査を行い、その結果を「学び舎」で共有し、指導改善のための具体的な計画を検討する。
 - ③ 卒業後の進路選択に向けた実践的な学力を身につけさせるため、9月より3年生を対象に、土曜補習を実施する。
 - ④ 「ことばの力」を育成するため、「美しい日本語を世田谷の学校から」の取り組み、教科「日本語」の授業はもとより、すべての教育活動を通して、「読む」「書く」「聞く」「話す・話し合う」活動を充実させる。
 - ⑤ 朝読書の時間や読書指導を通して、生徒の読書習慣の確立や読書力の向上を目指し、家庭、地域と連携して、知力や情操を育む読書活動の推進に努める。
 - ⑥ 生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、総合的な学習の時間、特別活動等の相互関連を図り、計画的、組織的なキャリア教育を推進する。特に、進路調べ、職場体験、進路相談などを計画的・系統的に実施する。
- (3) 健やかな身体を育成する学校
- ① 体力づくりに关心をもち、自らすすんで体育やスポーツに取り組む授業や部活動を推進する。
 - ② 食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導について、教育活動全体で行うとともに、家庭や地域社会との連携を図る。
 - ③ 部活動は課外活動ですが、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意して行われる活動である。中学校における部活動に対する期待と教育的効果を考え、全教員がこの指導に当たります。また、複数顧問をおくよう努力する。
- (4) 家庭・地域が積極的に参画する開かれた学校
- ① P T A活動が活発で、「協力・協育」の姿勢がある学校を目指す。
 - ② 地域運営学校の指定を受けるなど、地域参画型の教育活動を推進する。
 - ③ 学校関係者評価委員会を設立して、学校関係者評価を実施し、学校改善に努める。
 - ④ 学校協議会の充実を図り、教育活動、地域防災、健全育成に家庭・地域と共に取り組む。
 - ⑤ ホームページ、学年だよりなどを充実させ、情報が家庭・地域に確実に伝わる工夫をする。
 - ⑥ 学校行事への積極的な参加があり、保護者も生徒とともに育ち、学ぶ学校を目指す。
 - ⑦ 「子どもぶんか村」、「ふれあい祭り」「防災訓練」など地域で行われている行事や活動などに積極的に協力するとともに、生徒の参加を積極的に呼びかけ、地域に学び、地域の一員としての自覚を高め、感謝する心や社会性を身に付けた生徒を育成する。

4. その他

(1) 生徒指導の充実

社会の急激な変化、家庭や地域の教育力の変化などに伴い、生徒たちは様々な悩みや不安をかかえている。その一部は、いじめや不登校などの問題行動として現れている。また、心身に障害のある生徒に対する特別支援教育の充実も課題である。このような実態に対して、生徒指導の基本は、「厳しさと温かさ」であると考えています。生徒理解を深め、安心して学校生活が送れるように、生徒一人一人への支援をしていく。具体的な方策として、

- ① 「挨拶」「時間」「身だしなみ」「掃除」を重点とし、基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための自己指導力を育成する。
- ② 自己の言動に対して責任をもち、社会規範を守る態度を育成し、「いじめ」や「暴力」が起きない教育を推進する。
- ③ 教師と生徒の人間的な触れ合いに基づくきめ細かい観察や教育相談を通して、生徒理解を深め、教師と生徒の信頼関係を築く。

- ④ 生徒指導上の問題に対しては、情報の収集と共有化を図り、迅速な対応、親身な指導、継続的な支援を心がけ、問題の早期発見、早期解決に努める。
 - ⑤ 全教職員の共通理解と保護者の協力をもって、学校と家庭が同一歩調の生徒指導を行う。
 - ⑥ 常に危機管理意識をもって、生徒の安全、防犯に努める。
 - ⑦ 適応学級、教育相談室、警察、大学、教職員大学院など諸機関との連携体制を深める。
 - ⑧ 特別支援コーディネーターを中心に、学校全体の支援体制を整備し、スクールカウンセラー、スクールソポーター等との連携を深め、個に応じた指導を推進し、特別支援教育を充実させる。
- (2) 教育環境の向上
- 教育活動の効果を上げるために、良い教育環境を維持していかなければならない。そのためには、限られた施設や予算を有効に活用するとともに、人的な教育環境の向上にも努める。具体的には、
- ① 校内美化活動・掲示活動の推進や自然環境の整備を図り、落ち着いた学習環境を作る。
 - ② 定期的な点検を行い、迅速な施設の修理、改善を実施します。校内努力では対応できないものについては、教育委員会の協力をもとに、より良い環境の維持に努める。
 - ③ 予算を有効かつ計画的に執行します。場合によっては、複数年で計画する。
 - ④ 相談室を有効に活用して、教育相談、特別支援教育を充実させる。
 - ⑤ 教育支援員、外部指導員、地域の人、大学生ボランティアなど人的資源を積極的に導入し、活用する。
 - ⑥ 校内研修を計画的に実施し、教育活動の充実と教職員の資質の向上を図る。
 - ⑦ 研究授業を実施し、授業力の向上と授業改善に努める。

II. 学校の概要

1. 校長 徳永 啓介
2. 学級数・生徒数

学年	1年	2年	3年	計
学級数	5	5	5	15
生徒数	189名	183名	201名	573名

3. 学校の特色

船橋希望中学校は、船橋中学校と希望丘中学校が統合し、今年度新たに設立した学校である。保護者と地域の方々に支えられ、3年間の準備期間を経て開校することができた。教員、生徒、保護者が共に新しい伝統と文化をつくるという意識を強くもち、時間をかけて取り組んできた。現在は旧希望丘中学校の校舎で生活しているが、平成26年度からは旧船橋中学校の敷地に新校舎が落成する。環境としては住宅地に囲まれ、畠や公園も多くある緑にも恵まれた地域である。

統合による生徒の不適応も心配されたが、統合前からの交流活動や新しい学校を自分たちの手で作り上げていくという生徒の意識のもと、落ち着いた学校生活を過ごしている。明るく活発な生徒が多く、運動会や学芸発表会などの行事に本気で取り組み、達成感を実感する中で、人間関係を深めている。落ち葉掃きなどの清掃活動やペットボトルキヤップ回収、アルミ缶回収等の生徒会主催のボランティア活動にも多くの生徒が参加している。生徒会役員やPTAが中心となり「あいさつ運動」にも取り組んでいる。部活動も活発に行われており、都大会や全国大会にも出場し、世田谷区生徒表彰も受けており、総合体育大会では、女子の部で2位に入賞した。今年度は世田谷区中学校陸上競技大会では、男子総合4位、男女総合6位

になり、健闘している。さらに、地域では中学生を中心に、子どもぶんか村（青少年船橋地区委員会）による文化活動が盛んであり、青少年船橋地区委員会が主催で中学生研修会を実施している。

4. ホームページアドレス <http://school.setagaya.ed.jp/tfuu/>

III. 重点目標の評価および数値目標の達成状況

1. 人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。

「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」と実感できる生徒を80%以上にする。

【達成状況等及び改善方策】

生徒の「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」は、89%が肯定的に解答し、保護者の「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」は、95%が肯定的な回答であった。船橋中学校、希望丘中学校のそれぞれの良い点を取り入れ、より充実したものにすることができた。今後も行事を通して、学校や学級への所属感を高めるとともに、成就感や感動を体験させ、お互いに鍛え合い、切磋琢磨し、認め合い・支え合い・高め合える活動、充実感・達成感のある活動を推進し、人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図っていく。

2. 日々の授業を充実させ、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。

「授業の内容が理解できる」と実感できる生徒を80%以上にする。

【達成状況等及び改善方策】

学習習得確認調査をもとに課題を明らかにし、わかりやすい授業、興味の持てる授業を展開できるように工夫し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用し課題解決が図れるように取り組んだ。その結果、「授業の内容がよく理解できる」と実感できたと答えている生徒は、1年生72%、2年生74%、3年生80%であった。目標を達成できるように今後も努力していく。また、学習習得確認調査の結果でも、その時は理解しているが定着していない、やや複雑な問題になると正答率がかなり低くなる傾向がある。世田谷9年教育をさらに推進し、指導方法を工夫し、基礎・基本を確実に習得させ、それを活用することができるよう取り組んでいく。

3. 基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための強い心を育てる中で、一人一人が大切にされ、お互いが認め合い協力しあえる集団を育成する。

「学校のきまりを守って行動している」と自覚できる生徒を90%以上にする。

【達成状況等及び改善方策】

「学校のきまりをきちんと守っている」という項目においては、1年生80%、2年生89%、3年生89%、全体で86%が肯定的な回答をしている。統合1年目ではあるが、生徒は概ね落ち着いた生活をしている。登校時間やマナー、服装などの基本的な生活習慣を確立できるように、全校朝礼や行事などで適時指導している。生活委員会でもポスター等の呼びかけをしている。「とても思う」と答えた生徒の割合は、1年生22%、2年生29%、

3年生36%と学年の進行とともに上昇し、全体で29%であった。

保護者の「本校では、子どもたちに問題となる行動が少ない」は68%、地域の「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」は90%、「通学している子どもたちに問題となる行動が少ない」が94%が肯定的な回答であった。また、生徒の「他の人に対し、認め合い、励まし合う気持ちをもっている」は81%が肯定的な回答であった。今後も日頃から、きまりを意識し、自分で考え、正しく行動できる生徒を育成し、お互いが認め合い協力しあえる集団を育てていく。

IV. 地域とともに子どもを育てる教育の評価

1. 保護者・地域連携等

(1) 学校協議会

町内会や商店街、青少年委員、民生委員、まちづくりセンター、消防や警察などの関係諸機関等との連携での意見交換の場になっている。一方、保護者の中にはその活動が見えていない部分もある。学校協議会委員が、「防災防犯」、「健全育成」、「教育活動の充実」の3部会に分かれて、連携を図りつつ、本校の教育活動に協力をいただいている。「地域の人材や施設の活用」については、保護者56%（わからない29%）、地域63%（わからない16%）、「地域の活動や行事への協力」は、保護者63%（わからない25%）、地域84%の肯定的評価を受けた。「学校協議会機能」の肯定的評価は、保護者54%（わからない38%）、地域79%であった。今後も3部会の活性化をさらにすすめると共に、学校協議会の活動や地域との連携についても、さらに積極的に知らせていく必要がある。

(2) P T A活動

「Hand in Hand 一つなる美しき絆」をテーマに活動した。統合1年目であり、昨年まで両校で行っていたP T A活動のすり合わせに長い時間をかけ、熱心に討議をしている。月1回程度のP T A運営委員会を軸としながら、P T A役員会を中心となり、各委員会との協力により活発な活動が行われている。特に、各委員会による地域や学校主催の行事への協力的な支援活動は、地域に根付いたP T Aとして重要な役割を担っている。「学校からの通信（プリント）に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている」は85%、「保護者に対し、ていねいに説明や対応をしている」は76%が肯定的な回答をしている。

今後もていねいな対応を心がけていく。

(3) 家庭教育支援

家庭教育学級では「つながり」をテーマに、第1回は「親子の「つながり」はより良いコミュニケーションから～家庭内のストレスゼロを目指して、今日からできるセルフコントロール～」、第2回は「腸を元氣にする食習慣を身につけるお話」、第3回は「みんな笑顔でつながろう！」を実施した。単P研修では、「子どもとおとながつながるために」をテーマに、講師を招き、時には生徒も参加するなど多様な研修が行われた。

第1学年で5月当初、教科別説明会を開催し、中学校での学習方法や家庭学習の進め方について支援活動を行った。生徒向けに「中学校生活のしおり」を作成し、生活や学習などの具体的な指導を行った。来年度も行っていく。

(4) 地域運営学校

学校運営委員会を年間7回行い、両校の良き伝統や文化を引き継ぎ、新しい文化伝統を築

くために、学校の様々な課題を協議して、より良い方向に進めるための意見交換を行っている。また、さまざまな場面で協力をいただいている。

2. 広報活動・情報提供

学校公開週間を年3回等、教育活動への参加機会を設定している。今年度も各学年ごとに学年便りを週1回以上発行することができ、「学校からの通信（プリント）に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている」は85%、「学校の様子がよくわかる」と答えた保護者が65%、「情報提供をしている」と答えた地域の方が89%であり、広報活動・情報提供の取組は概ね良好であった。「ホームページ」の充実については、それぞれ47%（わからない34%）、69%（わからない21%）であった。ホームページに宿泊行事や学校行事など、その都度更新するとともに、校外学習では、現地の進行状況を伝え、保護者からも好評である。地域への情報提供やホームページ上に迅速に情報を掲載するなど、今後もきめ細かな対応を続けていく。

V. 未来を担う子どもを育てる教育の評価

1. 教育課程の実施にかかる状況の評価及び改善方策

（1）教育目標

- ① 教育目標は、各教室、職員室、校長室などに掲示し、常に意識できるようにしていると共に、全校朝礼等で適時説明している。生徒のアンケートの結果、「認め合い、励まし合う」81%、「深く考えて行動する」は72%、「磨き合い、高め合う」は71%が肯定的に回答している。また、保護者会、学校協議会等で、保護者や地域の方々へ説明している。アンケートでの「重点目標が明確である」は、保護者57%（わからない28%）、地域95%であり、保護者へのより積極的な説明が必要である。
- ② 世田谷9年教育を推進し、学習習得確認調査、学習確認会議により、課題を明確にし、その解決に向けた取り組みを行っている。学び舎発足式、合同学習確認会議を行い、学び舎としての課題を確認し、小中授業見学、世田谷区教育要領に基づいた研究授業、合同研究会を実施し、課題解決に向けた取り組みを行っている。

（2）学習指導（教科「日本語」、総合的な学習の時間を含む）

- ① 指導方法の工夫改善、中1ギャップ、プロポーザル、1学級39人以上で加配や区費講師を受け、1年数学（数量）3年数学と2、3年英語において少人数授業、1、2年生の美術と1年家庭、1年数学（図形）、3年国語、3年音楽、3年女子保健体育ではTTを実施している。
- ② 数学、英語の放課後の補習授業を年間100時間行った。
- ③ 生徒による「授業の内容はよく理解できる」は1年72%、2年74%、3年80%であり、学年が進行するにつれて上昇している。「通知表の評価は、納得できる」は保護者78%，生徒73%が肯定的であり、概ね学習への取り組みは理解されていると考えられる。生徒は肯定的にとらえているのに対し、保護者は評価についての妥当性は認めているものの授業・学力については、肯定的な回答は56%であった。今後も世田谷9年教育を推進し、学力向上に向けた継続した取り組みや情報発信を続けていく必要がある。
- ④ 基礎的基本的な内容等の定着状況を把握する「学習習得確認調査」を行い、小学校との合

同学習確認会議を開催し、学び舎での課題を明確にすることができた。また、中学3年生を対象に進路選択に向けた実践的な学力を身につけるための「朝学習」「土曜講習会」を実施した。

- ⑤ 総合的な学習の時間を中心に、職業講話、職場体験、上級学校訪問や都立高校の先生による出前授業などを実施し、学ぶ目的や自分の将来を考えさせた。また、授業規律の確立を図り、真剣に学ぶ生徒の育成やみんなで互いに磨き合う態度の育成を図った。
- ⑥ 学習についての生徒アンケートでは、「教科『日本語』の内容は理解できる」について、1年生は64%、2年生は82%、3年生は81%が肯定的な回答であった。指導資料を活用しながら、深く考え、表現し、日本文化を継承していくように、今後も取り組んでいく。

(3) 各教科による課題と改善策

《国語》○目的に応じて的確に読み取る能力を伸ばすため、正確に音読すること、指示語や接続語、キーワードを確認しながら読むことを意識させる。

○目的や場面に応じ、筋道を立てて文章を書く能力を伸ばすため、100～200字程度で要約文や意見文を書かせる。

○漢字の読み書き等、基礎的基本的内容を定着させるため、小テストや学期に一回のまとめの漢字テストを行うとともに、生徒の実態に合わせて補充プリントを増やす。また、辞書や読書に親しむ態度を育てることで、語彙を豊かにさせていく。

○論理的表現力を伸ばすため、テーマを決めてスピーチや集団討論の授業を行う。

《社会》○地理分野の中で、世界地理の学習内容が多く、かなりの時間がかかる。

○授業内で適宜小テストを行い、夏休みの課題に表現力育成のためにレポートを、夏休み明けに復習のためのテストを行っている。

○ポイントがつかみやすいプリントの作成・利用。

○新聞やニュース、資料集を利用する。

《数学》○1年生では小学校との連携を大切にし、既習内容との関連を重視した指導を行う。

○全学年において、基礎・基本の確実な定着を目指し、反復学習を行う。

○習熟度に応じた課題を用意する。1・3年生では習熟度別小人数授業を実施し、個々の目標を明確にさせ意欲を高める。

《理科》○意欲を高める教材の研究を継続していく。

○ICTを効果的に使う教材の研究を継続していく。

○理解が十分でない生徒があきらめないで学習に取り組むよう、補習などでフォローしていく。

○理科室が2つなので、化学分野が学年で重複することがあり、調整する必要があった。

○実験や観察をしっかりおこない、体験を通じて理解させることができた。

《英語》○1年生では少人数授業は実施せず、クラス単位での授業を行い、基礎・基本の定着と英語の学習方法を身につけさせる。また、2・3年生では習熟度別小人数授業を実施し、基礎クラスの人数をできるだけ少なくして指導した。

○定期考査にリスニング問題を必ず出題している。インタビューテストやスピーチテストなどを評価の中に取り入れ、聞く力や話す力を高める。

○定期考査以外にも、定期的に単語テストや基本文テストなどを実施している。また、理

解不足の生徒に対して、補習を実施している。

《音楽》○3年生では、T.T.の形態で指導し、合唱指導において大きな成果をあげることができた。

○授業のまとめプリントの内容を工夫し、説明を聞いてすぐに練習問題に取り組むようにする。そして机間指導により、理解できていない生徒の支援をしていく。

○声を大きく出す発声練習を取り入れ、パート練習時に1人一人の声をよく聞き、変声期の生徒など、必要な生徒には個別に発声指導をする。

《美術》○おおむね教科の目標は達成されている。充実した学習ができている。生徒の興味関心や学習に対しての理解度や満足度もある程度良い評価であった。しかし、統合のために、1年・2年の課題が違う3年生の題材はカリキュラムを組みにくく、学習の進行に影響した。

○T.T.の機能を十分にいかし、また視聴覚機器を折に触れ活用することで、内容のある授業を実施できた。

○40人という大人数(3年)では、美術室のスペースが狭く、材料や道具を機能的に配置するのには無理があり、学習の進度に少なからず影響した。また、材料の管理など、美術室外への持ち出しがあり、その都度指導した。

《保健体育》○興味・関心を高め、目標をもって取り組むことができるよう、学習カード等の工夫を行った。

○ICT機器を積極的に活用し、映像などを見せて具体的なイメージ作りや各自の改善点を考えられるようにした。

○体力テストの結果から、体力の強化は課題であり、1校1取組や授業の中での体力作りにも重点をおいて進めて行きたい。

《技術家庭》○生徒の実態をきめ細かく掴み、授業内容や課題を工夫して当たる。

○1年の授業において、T.T.の形態で指導し、実習等において個別の対応も出来るようにし、生徒の意欲を高める。

2. 生活指導、道徳、特別活動、学校行事、体育・健康教育・食育、キャリア教育・進路指導、世田谷9年教育、特色ある教育、特別支援教育

《生活指導》

「あいさつ」「時間」「身だしなみ」「掃除」を重点とし、基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための自己指導能力を育成した。5分前行動を心がけるように指導をしたが、遅刻寸前に登校する生徒も固定化している。今後も5分前行動を推進していく。学校生活全体では統合後も保護者や地域の協力や指導の効果により、落ち着いた生活を送っている。しかし、統合後の校内のルールや生活指導上の課題などを教職員も感じており、今後、教師と生徒の人間的なふれあいに基づくきめ細かい観察を継続していく必要がある。

《道徳》

9月に道徳授業地区公開講座を実施した。全学年での意見交換会を行い、参加者から活発な意見が出て、家庭・地域と連携した道徳教育の在り方など、相互理解を深めることができた。

道徳の時間では、道徳的な心情・判断力・実践力を育てることを主眼に置き指導している。その結果、学校関係者評価アンケートでは、「わたしは学校のきまりを守って行動している。」に86%の生徒が肯定的に答え、保護者の「社会のルールを守ることについて子どもたちに指導が行

われている。」は79%、「子どもたちに問題となる行動が少ない。」は68%が肯定的に答えている。今後も道徳的な心情・判断力・実践力を高める指導の工夫を引き続き行っていく。

《特別活動》

統合で生徒会役員が大幅に増加し、一人一人の負担が減った反面、下級生が上級生に頼りリーダーシップを発揮する機会が減少した。そんな中、専門委員会、中央委員会、生徒総会、意見箱の設置などを通して、学校内の諸問題を解決する自主的、実践的な態度を育てることができた。また、ペットボトルのキャップ、空き缶の回収を通して、社会に積極的に関わり、貢献できる姿勢を育てた。

《学校行事》

学校関係者評価をみると、学校行事の項目は、生徒、保護者、教職員ともに肯定的評価の高かったものである。生徒の項目で「楽しみにしている学校行事がある」を肯定的にとらえている割合は82%。その中の《とても思う》を選択したものは、51%であった。「行事では、みんなが活躍するチャンスがある。」「先生は、生徒の意欲を大切にした指導をしてくれる。」もそれぞれ73%と74%で、統合による影響を心配した部分もあったが、生徒は、学校行事に積極的、前向きにとらえ新しい学校の一歩を築いてくれた。

保護者の方も大方が肯定的で「子どもたちは、学校行事を楽しみにしている。」87%。「子どもたちが活躍する場面がたくさんあり、内容が充実している。」78%で、評価の高い項目である。

教職員の自己評価においても、肯定的評価の高い項目である。「生徒は主体的に行事に参加している。」は、29名中28名が肯定的評価であり、「学校行事の工夫・改善が進められ、準備が適切に行われている。」では全員が肯定的評価をしている。

今後も、生徒、保護者、教職員が一体となってより良い学校作りに邁進していきたい。

《体育・健康教育・食育》

1学期に体力測定、スポーツテストを実施した。1校1取組として、体育の授業の始りに筋力トレーニングなどを取り入れ、基礎体力の向上を図った。

給食の時間や学級活動を通して、生徒一人一人が望ましい食習慣を身につけ、食事を通して自らの健康管理ができるようにするとともに、食の大切さ、命の大切さについて考え、マナーや感謝など豊かな心を育成する取組みを行った。

家庭教育の支援として、家庭教育学級、給食試食会、給食便りなどを通して、保護者や地域の教育力を高めた。

《キャリア教育・進路指導》

・キャリア教育

1学年=「職業講話」・「職業調べ」 2学年=「職場体験（3日間）」・「上級学校訪問」

3学年=「上級学校訪問」・「都立高校訪問授業」・「面接講座」・「身近な進路調べ」を実施し、上級学校、職業についての情報収集・体験学習・新聞作成等を通してキャリア教育に関する学習を深めた。

・進路指導

進路説明会に関しては3年生を中心に1・2年生の保護者も参加して、1学期・2学期の2回実施した。進路に関する情報が十分に提供されているとの判断は学年が上がるごとに上昇しており、3年生では生徒、保護者共に70%を超えている。

《世田谷 9 年教育》

「学び舎」の活動については、この取り組みが初年度ということもあろうが、保護者、生徒、教職員とも評価の低い項目である。

学校関係者評価の保護者の回答では、「「学び舎」の活動について十分な情報が提供されている。」34%。「「学び舎」の区立小学校について十分な情報が提供されている。」31%なので、「学び舎」についての情宣活動をさかんにしていく必要がある。

生徒の項目で、「学区域にある区立小学校とよく交流している。」が33%なのに対し、保護者の「隣の小・中学校で構成する「学び舎」による小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」は、50%であるので、保護者は、学区域内での活動に多くが参加しているとも読み取れる。

教職員のほうは、保護者、生徒以上に「9年教育」の具体的活動、交流が実感できていないようで、自己評価の中でも最も肯定的評価の低かったものである。「「学び舎」の特色ある教育活動が実施されている。」の肯定的評価は、29名中わずか12名であった。また《わからない》という回答も見られた。初年度とはいえ、教職員のより一層の取り組みが求められるところである。

《特色ある教育》

相談室を毎日開室することができるよう、スクールサポーターを常駐させていることにより、気楽に相談でき休み時間に利用し、気持ちを切り替えて次の授業に臨んでいる。教室に入りにくくなった生徒の利用はほとんどなかった。

3年生を対象に、狂言教室を実施した。本物を見ることにより、学校生活への意欲が高まった。3学期には、全校生徒を対象に落語教室、3年生を対象に茶道教室、和楽器講習会を予定している。1年生では、職業講話も実施した。体験学習後は学習への取り組みも意欲的になった。また、船橋青少年地区委員会が中心となり、全校生徒を対象に中学生研修会を実施したり、地域が中心となり、卒業する3年生全員を対象に救急救命講習を予定している。

《特別支援教育》

特別な配慮を必要とする生徒の特性を全教職員が共通理解し、適切な対応ができるように情報交換を重視している。スクールカウンセラーや外部の専門機関との連携を密にし、アドバイスを受けるなどの研修にも努めている。相談室が常に開室できるように、スクールサポーターを導入し、大学生との連携も進めている。

3. 部活動の取組状況の評価及び改善方策

職員（顧問）数が増え、部の開設数も増えたため、より充実したものになった。生徒のアンケートでも、「部活動は充実しているか？」という質問に対し、60%以上の生徒が「とても充実している」または「充実している」と回答している。世田谷区総合体育大会では女子が総合2位に入賞するなどの実績を残している。

VI. 信頼と誇りのもてる学校づくりの評価

1. 学校経営・学校運営にかかわる状況の評価及び改善策

(1) 学校評価

保護者、地域の学校への関心が高く、多くの意見をいただいているので、学校の改善に役立っている。今後も地域、保護者の意見に耳を傾けて教育活動を実践していきたい。

(2) 教職員

教職員の生徒に対する指導や生徒との信頼関係については、保護者からの信頼と協力をいただいている。また、教職員の保護者への対応についても、概ね肯定的に受け止めている。地域の方からも「学校に入った時に、主事さんをはじめ教職員の皆様の対応がとてもよく、子ども達も元気よく明るくあいさつしてくれます」とか、保護者からも「よくあいさつをしてくれる」と評価をいただいた。

(3) 研修・研究

今年度は、1学期に合同学習確認会議、2学期にエンカウンターの研修を実施し、3学期に教科「日本語」の研修を計画している。今後も、授業力向上や日々の授業改善だけでなく、生徒のコミュニケーション能力の向上や望ましい人間関係の構築にもつながるような研修内容を取り入れていきたい。

(4) 保健・衛生等管理

学校保健年間計画に基づき、学校行事や季節に即した保健管理・指導を行っている。学校薬剤師の指導の下、適切な環境衛生を運営している。

(5) 安全管理

9月3日の集団下校訓練や、毎月の避難訓練などを通して安全教育を推進している。PTAと協力をして、統合後の新しい地区班を考える作業中である。避難訓練も昼休み時間、終学活時間など工夫しておこなうことができた。登校時の生徒の交通安全が今後の課題である。

(6) 出納・経理

予算編成から予算執行まで、執行状況も適宜報告され、適正に行われた。教職員の評価も高い。私費会計の処理・管理は適切に行われている。

(7) 文書・情報管理

学校から発信する文章は校長の決裁を得ている。指導要録等の記入・点検・整理は教務部を中心に行っている。校務パソコンを活用し、個人情報を管理している。

VII. 教育環境の整備の評価

1. 施設・設備の管理の状況等の評価及び改善方策

統合により生徒数が増え、プレハブ校舎で対応しているが、その分校庭が狭くなり、運動会は総合運動場で実施している。施設・設備の点検は毎月、定期的に行われている。大雨の時には、雨漏りがあるが、後1年間の使用であるため、何とかしのいでいく。

平成26年度、新校舎への移転がスムーズに行えるように準備していきたい。